

長年愛読している総合俳句誌『俳壇』の投句欄で、八木健会長選による「滑稽俳壇」をいつも楽しみに読ませて頂いています。どの句も、読んでいてクスッと笑ってしまいます。軽妙洒脱とはこの事。テレビや新聞でニュースになった時事問題や社会現象を、見事に切り取って俳句に詠んでおられる。私もニュースを観て、心の奥に同じような事を感じながらも、十七文字の言葉にまとめるのは至難の業。私には滑稽俳句は作れないとずっと思っていました。

ところが、『俳壇』で私の初句文集『影遊び』が紹介されたことがきっかけで、愛媛在住と知った事務局の日野根さんが、句会に誘ってくださいました。驚きと共に、私に滑稽俳句が作れるだろうかと躊躇しましたが、私を俳句へと導いて下さった最初の師、「炎昼」主宰の谷野予志先生のお話を思い出しました。「俳句にはユーモア、滑稽の要素もある。そして、ただ面白可笑しいのでは無く、滑稽の中に人生の悲しみや喜びも込められているんだよ」。この言葉に、滑稽俳句に参加させて頂く事を決めました。とは言え、ユーモアのセンスに乏しいと自覚している私は、どうすれば良いのだろうと悩んでしまいました。でも、句会に参加させて頂いたり、滑稽俳句協会報を読ませて頂くうちに、不安は徐々に消えていきました。「滑稽」と大上段に構える事無く、日常生活の中で感じた事を素直に俳句に詠んでいけば、読む方が滑稽を受け取って下さると分かったからでした。これからも宜しくお願い致します。